

平成30年度学校自己評価システムシート（埼玉県立越谷北高等学校）

目指す学校像	生徒の夢を志に変え、進路実績をさらに伸ばすとともに、高い理想と豊かな人間性を兼ね備えたグローバルなリーダーを育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の第一志望を実現させ、卒業後も広い視野を持って活躍できる北高生を育成する。 2 高い向上心と規範意識を有し、品格ある逞しい北高生を育成する。 3 創立50周年を契機として、積極的な情報発信を行い、信頼される北高作りを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者 学校関係者 10名
生徒 5名
事務局(教職員) 11名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価(月日現在)			実施日 平成31年2月8日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価
1	【現状】 生徒の主体的な学びを組織的に進め、学力を向上させる授業改善が始まっている。 進路指導では、生徒が第一志望を諦めない指導を実践している。 理数科では、高い志と課題発見力が育成されつつある。 【課題】 生徒の第一志望を実現するため、より高い志を持たせ、主体的・対話的な深い学びを推進し、思考力・判断力・表現力を高める必要がある。 SSH事業の指定を受け、全校体制で生徒の課題発見力の育成を推進する。	○ 生徒の主体的な学習を組織的に推進し、学力を一層向上させる授業改善	① 学習指導委員会やSSH推進委員会を中心に、教科・学年・分掌が連携し、主体的な学習活動を支援する授業改善を進める。 ② 新しい北高ダイアリー等を活用し、家庭学習の時間を増やす。 ③ 思考力・判断力・表現力を高めるため、アクティブラーニング等の主体的な学びの授業を推進する。	① 学校評価アンケートの学習指導体制の生徒満足度を90%以上 校内研修の充実や外部機関の研修会等の参加状況。 ② 家庭学習時間が昨年度より増加したか。 ③ 授業評価アンケート「意欲的に参加した」及び「学び合いの場面がある」の割合を各々80%、60%以上。 SSHアンケート(理数科及び1年生)の主体的対話的学習について年度当初より積極的に取組めたか。	主体的な学習を組織的に推進し、学力を一層向上させる授業改善が推進された ① 生徒満足度は84.7%(昨年は86.2%)、保護者満足度は92.6%(93.1%)。「クロスカリキュラム」と「新教育課程」の研修会を実施、授業力向上研修に延べ16名参加 ② 家庭学習時間は、1年が1.6h(1.4h)2年は1.7h(1.7h)3年は4.2h(4.0h)。 ③ 「意欲的に参加した」は77.8%(77.9%)、「学び合いの場面がある」は64.6%(58.8%)。SSHアンケートでは「自らの学習活動を振り返り、つぎにつなげることを意識しながら学習している。」は48.3%、「他者との対話を通じて、自らの考えを深めることができる」は66.3%。	B	・高大接続改革に伴う授業改善や進路指導の新たな方向性、教育課程の検討等を企画委員会・分掌・各教科・学年等で連携して推進する。 ・「北高ダイアリー」を活用して自己管理能力育成し、家庭学習の時間を増加させる。	・北高生は授業の中で、先生が板書しない重要な事柄を積極的に記録し、学びとろうとしており、学びに向かう姿勢が素晴らしい。続けて主体的で対話的な学習を組織的に推進してほしい。 ・2学期に、普通教室にプロジェクターが設置された。ICTを活用して、今まで以上にわかる授業を提供してほしい。 ・引き続き、第一志望を諦めない指導に取り組み、生徒の進路実現に向けて、全校体制で進めてほしい。 ・クロスカリキュラム、欧米ではこのような取り組みが多い。横断的な教科間連携を更に強化し、一層の充実を図ってほしい。 ・SSH事業において、生徒の課題発見力が向上したかどうかを評価する方法について、更に研究を進めてほしい。
		○ 生徒に高い志を持たせ、第一志望を実現させる進路指導	① SSH事業や進路行事、県指定事業等の活用により高い志を育成する。 ② 進学講習や補習の内容を研究し、一層の充実を図り多様な生徒のニーズに対応した講習を行う。	① 第一志望校(6月時点)の合格率を40%以上。 難関国公立大合格者数(10名)、国公立大合格者数(90名)、難関私立大合格者数(80件)、準難関私立大合格者数(270件)以上。 ② 進学講習の参加者数	生徒の第一志望を諦めさせない進路指導が実践できた ① 11月の第一志望校の状況は6月を基準に、国公立大学87%、難関国公立大学85%で、6月の第一志望をほぼ維持。詳細は、国公立大学206名(6月は236名)、難関国公立大学は22名(26名)、早慶上理63名(42名)、G-MAR C H72名(70名)である。 ② 夏期講習90講座(97講座)で延べ3692名(3528名)受講 3年平常講習は毎週19(20)コマ開講。	A	・学校評価アンケート進路指導の生徒満足度87.6%(87.5%)で適切な指導が行われている。継続して第一志望をあきらめない進路指導を推進する。	
		○ SSH事業を活用し、高い志と課題発見力を有する生徒の育成	① SSH推進委員会を中心に、全校体制でSSH事業を推進する。 ② 様々な組織・機関と連携し、高い志と課題発見力の育成を図る。	① 教科間連携のシラバスを作成し、クロスカリキュラムを見える化できたか教科間連携が実施できたか。来年度に向けたルーブリック評価等の作成ができたか。 ② 研究成果発表会や地域と連携、各種コンテスト等に参加したか。生徒の志を高める講演会が実施できたか。	SSH事業を活用し、高い志と課題発見力を有する生徒の育成が緒につき始めた ① 1年生用クロスカリキュラムシラバスを作成、40本の授業案(単元型37本、スキル型3本)を企画又は実施。ルーブリック評価作成のための検討が進んだ。 ② 2月に研究成果発表会を実施、サイエンス教室や科学の甲子園、数学フェア、ふれあい環境フェスタ等に参加。1月に数学者「中島さち子氏によるSSH講演会」を実施し、生徒の研究者になる志が高められた。	A	・SSH事業を年次進行で拡大し、各事業の充実を図る。 ・SSH事業による生徒の変容を客観的に検証する方法の一層の充実を図る。	
2	【現状】 規範意識と高いリーダーシップを有する生徒が育成されつつある 【課題】 高い規範意識と品格を有する次世代のリーダーを育成する。	○ 正しい倫理観と品格の育成	① 挨拶、整容、自転車等を含む登下校のマナーや情報通信のモラル等について、自ら判断し改善できる力を養う。	① 生徒・保護者の生徒指導満足度90%以上にする。	正しい倫理観と品格が育成されつつある ① 学校評価アンケート生徒指導満足度は生徒82.5%(82.9%)、保護者95.5%(94.4%)。交通安全指導、頭髪、服装、遅刻指導、登校指導の指導体制が整い、全校で実践できた。情報モラル研修会を実施	A	・生徒の交通ルールやマナーを向上させるため、登下校指導を一層強化する。また教育相談やカウンセリングの指導体制を整備する。 ・学習と部活動の両立が図れるよう教科や部活動顧問の連携を進める。 ・部活動や生徒会の行事、各種事業や地域との連携を通して、リーダー育成を推進する。	・通学時のマナーや情報モラルの指導に、工夫や改善を行いながら、継続して取り組んでほしい。 ・北高生と地域等にとって、連携活動等は大変有意義である。環境フェスタの参加や特別支援学校との交流、保育園との連携等は大変好評であった。今後も継続して取り組んでいただきたい。また、北高生が中学校に赴き、勉強を教える等の交流活動も進めてほしい。
		○ リーダーとして活躍できる生徒の育成	① 部活動や学校行事、各種事業等の多様な活動により、北高生の指導力・共感力を高め豊かな人間性を有するリーダーを育成する。	① 部活動入部率95%維持し、生徒会・部活動の地域連携参加25件以上、学校行事の生徒満足度95%以上。	リーダーとして活躍できる北高生が育成されつつある ① 部活動の加入率は95%で昨年とほぼ同じである。「グローバルリーダー」事業に2名参加、「骨太・探究」プログラムに3分野6名参加。生徒会・部活動を中心に23件(23件)の地域連携活動を実施。カナダ研修に28名参加(25名)。学校行事の生徒満足度91.3%(91.8%)。	A		
3	【現状】 本校の教育活動が積極的に情報発信されている。PTAや地域等との連携も順調である 【課題】 創立50周年事業をPTA・後援会等と協力して運営し、本校の教育活動を更に発展をさせる。	○ 多様な方法による教育活動の情報発信	① ホームページ、土曜授業公開、学校説明会、教育機関への説明会、SSH事業等を活用し、丁寧で迅速な情報提供を行う。	① 志願倍率を増加させる。 土曜授業参加者数とアンケートの回答及び、学校評価アンケートの土曜授業満足度生徒70%以上、保護者90%以上にする。	多様な方法による教育活動の情報発信を行った ① 普通科は1.22倍(1.60倍)、理数科は0.83倍(1.45倍)と昨年より倍率がやや低下。土曜授業参加者数は1176名(1170名)。アンケートでは授業の取組やミニ説明会について高い評価を得た。学校評価アンケートの土曜授業満足度は生徒55.8%(61.5%)、保護者87.2%(88.5%)である	B	・中学生・保護者に本校の教育活動をより一層理解していただくため、学校説明会等の検討やホームページ等を更に充実させる。	・入試の志願者倍率について、校舎や環境は変えられない。教員と生徒で力を合わせて、教育内容を更に充実させ、北高の魅力を向上させてほしい。 ・今後も、PTA・後援会・同窓会の連携を深め、教育活動を向上させてほしい。
		○ 創立50周年事業を通じた、PTAと後援会地域との連携	① 創立50周年事業運営委員会を中心にPTA、後援会同窓会と綿密な連携を図り、秋の50周年事業を円滑に運営する。	① PTA活動の満足度95%以上。 50周年事業がPTA、後援会、同窓会との協力体制の下、円滑に行われたか。	創立50周年事業を通じた、PTAと後援会・地域との連携ができた ① PTA活動の保護者満足度は94.5%(94.7%)。創立50周年記念式典挙行、記念事業等保護者同窓会等と協力して実施した。	A		